

認知症（痴ほう症）になると、簡単な料理ばかりになることも…

認知症は「環境に適応し、たくましく、よりよく生きる」ための司令塔である脳が病気に侵され、十分に働かなくなつた状態です。もう少し正確に言えば「記憶を含む複数の認知能力が後天的に低下して、社会生活に支障をきたすようになった状態」ということです。

認知能力とは、記憶、言語、遂行機能、視空間機能など、社会生活を営む上で基本的な能力のことです。

低下する認知能力

記憶 ほとんどの場合、自分が体験した数時間前の出来事を思い出せなくなりま（近時記憶の障害）。出来事全体（食事の内容ではなく、食べたこと自体）をすっぽり忘れてしまうのが特徴です。

言語 「アレ」、「コレ」などの代名詞を多用し、言葉の語彙が減少してきます。

遂行機能 記憶の障害と前後して「仕事の計画や段取り」という作業能力（遂行

機能）が低下して、仕事や家事の能力が低下します。特に料理は献立を考え（計画性）、人数を考え材料を買い、順番を考えて料理するという遂行機能に負荷のかかる作業のため、認知症の初期から変化が出やすいものです。

視空間機能 物の形や空間の位置を記憶する機能のことと、熟知している道で迷ったり、車での事故が多くなったりします。

自分の状態が分からない

認知能力の低下以外に、「内省能力の減退」や「病態失認」といわれる症状が出現します。自分の記憶が悪くなっていることを認識できなくなるのです。自覚がないため、自分では医療機関を受診しようと思わず、発見が遅れがちになります。

早めの治療を

認知能力が軽症のうちに投与すればかなりの割合で症状を遅延、改善させる可

能性のある薬が出て以来、早期発見、早期治療が叫ばれています。しかし、当人に自覚がない以上、家族や地域住民がこの病気の特徴をよく理解し、早めに気付く以外に方法はないのです。

認知症についての相談はかかりつけ医か、認知症専門医、廿日市市保健センター、社会福祉協議会（☎0294）、在宅介護支援センター（19ページ）相談あれこれ（参照）などで行なっています。

おわびと訂正

8月1日号の「なるほど!!健康講座」を執筆した貝出泰範医師の所属は「佐伯歯科医師会廿日市支部」でした。

おわびして訂正します。



佐伯地区医師会廿日市支部
齊藤 裕次

なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎01610